



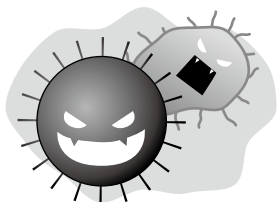
市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

インフルエンザ & ノロウイルスに克つ

毎年この時期になるとノロウイルス関連胃腸炎、年末年始になるとインフルエンザの流行が始まり、冬の2大感染症のシーズンになります。



この2大感染症は免疫機能が正常な人にも感染するため、家庭や病院内での2次感染および集団感染をいかに防ぐかが重要となります。

今年も市民病院はインフルエンザ注意報発令と同時に面会制限を実施します。面会制限の開始は病院ホームページでもお知らせしますので、来院前にご確認ください。患者の皆さんを守るために実施しますので、ご理解とご協力をお願いします。

対象 入院患者の家族以外の人、小児科受診対象年齢の人

それぞれの疾患の特徴

【インフルエンザ】

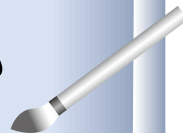
感染者の口や鼻からくしゃみなどでウイルスが飛まつすることで感染します。症状が出現する約2日前からウイルスの排出が始まっており、解熱後も数日はウイルスが排出されます。

体調不良時は自宅で安静にし、栄養と休息を取ることが大切です。また、病院を受診するときはマスクを着用し、ほかの人が感染するリスクを下げましょう。

【ノロウイルス】

特徴は罹患者から大量のウイルスが排出されることと、ほかの感染症よりごく少量のウイルス量でも発症しうることです。罹患者が1人いるだけでも家庭・病院内で集団発生を起こしやすいです。また、罹患者の下痢が治まったあとも1か月近く便中にウイルスが出ている場合があります。排便後は石けんを使用した手洗いを必ず実施して、手ふきタオルは別々にして、ドアノブやスイッチなど家族が触れる場所はふき掃除を1日に数回実施しましょう。

碧南の歴史へのいざない



問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.32 人物小伝 伊藤証信

前回ご紹介した清沢満之のほかに、碧南市ゆかりの著名な哲学者はもう1人います。その名は伊藤証信です。証信は明治9年(1876年)、三重県員弁郡久米村坂井(現桑名市)の農家の長男として生まれました。



△伊藤証信(市所蔵)

13歳のときに出家し、名僧になるべく勉学に励み、真宗大学の特待生となります。そして、明治37年(1904年)28歳のときに父の看病で実家に帰っていたある夜、無我になった自分がほかを全力で愛するという「無我愛」の靈感にうたれました。翌年、東京巢鴨村の大日堂に「無我苑」を開苑し、僧籍も離脱して「無我愛」を広める活動を始めました。その後、妻あさ子とともに求道に努めました。

大正14年(1925年)、49歳のときに西端の熱心な求道者の集団である竜灯団(農村青年団体)に強くこわれ、西端に活動の拠点を置くことになりました。「竜灯窟」と呼ばれた住まいで「無我愛」運動はさらに広がっていき、全国から寄付を募り、2度目となる「無我苑」を西端に開苑しました。

証信は昭和38年(1963年)、西端にて満86歳の生涯を終えますが、無我苑跡地はのちに市に寄贈され、全国でも珍しい精神文化を醸成する施設「哲学たいけん村無我苑」(平成4年開苑)として現在に至っています。



△新築当時の旧無我苑(哲学たいけん村無我苑所蔵)